

鈴木英敬三重県知事インタビュ

サミットは三重県にとって二度とないチャンス 皆で力を合わせ未来につなげていきたい



伊勢志摩サミットの開催が昨年六月に決定し、ますます多忙を極める三重県の鈴木英敬知事。サミットの準備の進捗状況だけでなく、昨年一年を振り返り、三重県のこれからを語っていただいた。

—— 昨年はどんな年でしたか？

鈴木 四月に知事選があり再選を果たせました。一期目の初当選の時は「勝つてうれしい」でしたが、二期目は選挙後すぐにサミットが決まり、より重い責任と身の引き締まる思いがしました。

—— 今年の課題と目標は？

鈴木 サミットをしっかりと成功させるということが一番大きな課題です。また教育や人づくりに

も力を入れていきたいと思っています。子どもたちの学力・体力の向上に力を入れ、この指針となる「教育施策大綱」を今年度に作りました。これに基づく教育ビジョンが二〇一六年四月からスタートします。

三重県は一八年にインターハイ、二二年に国体が控えています。今年はインターハイの準備を行うため実行委員会を立ち上げ、準備

を本格化させる重要な年でもあるのです。また今後一〇年の「地域医療構想」を二六年度中に作るつもりです。そのあたりが大きな課題だと思っています。

三重県は一九七三年に式年遷宮があり、七五年に国体があった時期に県内がたいへん盛り上がりました。今年はこれを上回り「あの年が三重県が変わるターニングポイントになったね」と言われるようにしたい。

—— サミットの準備の進捗状況は？

鈴木 まず一番大事な安全対策ですが、警察、海上保安庁、自衛隊が警備計画を立てるべく取り組んでいます。また鉄道、港、海でのテロ制圧訓練を行い、能力アップを図っています。

パリでのテロは市民が日常集う場所が標的にされたこともあり、昨年十月には

「テロ対策三重パートナーシップ推進会議」を立ち上げました。これは官民一体となって皆でテロを防いでいくことを目的としたもので、四一の業界団体や自治会等に入ってもらっています。

地域の正常な状態を最も分かるのはその地域の住民で、地域の着眼点は地域ならではのものです。そうした力も借りてテロ対策をしていきます。「不審なものを見つけたら何に注目すべきか」といった内容の研修を住民に向けて行っており、相談窓口も設けました。十一月末からは「住民懇話会」を催して要望を聞き、交通規制などの情報提供を行っています。「高速道路や電車が何カ月も止まる」などのウワサが出ていますので、住民の不安に対応するため、丁寧な情報提供を行っています。

また伊勢志摩サミット三重県民会議では、メディアも含めて関係者の宿泊予約を行っており、ほぼ確保しつつあります。

これまでも五〇日ごとの節目などにより大きなPR活動をし、名古屋駅などへの「カウントダウン

ボード」の設置などを行ってきました。今後も準備活動、情報発信をしていきます。

県内の関心の高まりは予想以上です。サミット関係の寄附は十二月十五日時点で三億六〇〇〇万円、法人の寄附や協賛は三〇〇件にもなりました。外国語案内ボランティアは二〇〇人程度を募集しましたが、一〇〇〇人を超える応募がありました。

サミットに向けて皆さんの力をこれからもお借りして準備し、最終的には、世界中、日本中、県民の皆さんから「サミットを三重でやってよかったね」と言われるようにしていきたい。

—— 今クリアすべき問題は？

鈴木 各国から首脳がやってきますが各国首脳の行程が未確定の部分があり、それに対する警備計画を立てていくことになります。また消防対策、感染症対策など、さまざまな対策をせねばならず、全国から応援をいただかなければならない部分もあります。

三重県のサミット関連予算は、二〇一四年度二月補正から一五年

